

共同運営部門：患者サポートセンター

一概要一

2018年4月に「患者サポートセンター」を開設し、業務を遂行している。医師・看護師・MSW・理学療法士・薬剤師・栄養士・事務職員などの多職種のスタッフが集い、「安心を届けるサポートセンター」～入院前から退院後も一人ひとりを支えます～をスローガンに、地域の医療機関からの紹介窓口や入院前の支援だけでなく、幅広く医療サービスの提供に努めている。

1. 地域医療連携室の活動実績

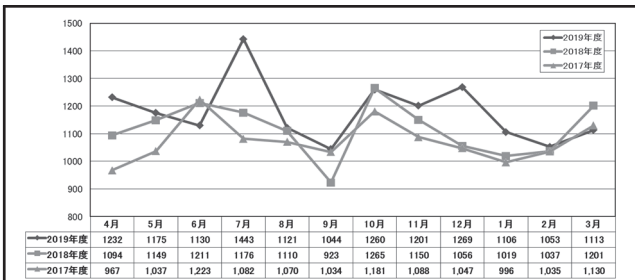
一業務一

地域医療連携室はかかりつけ医である開業医の先生方、地域の病院の先生方、介護関連事業所の担当者様と連携を図り、紹介・逆紹介を活発にし、良質な医療を提供し地域医療に貢献していくための対応窓口としての業務をおこなっている。また紹介患者受入の際にも医療知識を有した看護師が対応することで適正な判断が実現でき、質の向上にもつながった。

一実績一

地域医療予約件数(2019年4月～2020年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予約件数	1,232	1,175	1,130	1,443	1,121	1,044	1,260	1,201	1,269	1,106	1,053	1,113	14,147



※地域予約件数(月別)を年度比較した数値をグラフ化したデータ(2017年度～2019年度)

①紹介率・逆紹介率(2019年4月～2020年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
紹介率	57.9	51.7	55.7	61.6	51.7	60.7	59.3	64.5	65.7	56.3	61.5	67.4	59.1
逆紹介率	102.3	94.5	112.4	115.0	104.3	114.1	112.8	124.7	115.5	124.5	135.7	156.6	116.4

※地域医療支援病院用の算出基準にて率を算出

地域医療支援病院の要件である「紹介率が50%以上かつ逆紹介率70%以上」を十分に達成した。

②地域連携クリティカルパス導入件数(2019年4月～2020年3月)

地域連携クリティカルパスの導入に積極的に関わっている。

●がん地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳がん	0	1	0	0	1	2	2	0	1	1	1	2	11
胃がん	1	3	2	0	5	2	2	3	0	3	0	3	24
大腸がん	7	3	2	9	5	7	2	4	7	4	2	6	58
合計	8	7	4	9	11	11	6	7	8	8	3	11	93

●脳卒中地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳卒中	13	20	8	10	12	14	20	16	12	16	9	22	172

●大腿骨地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大腿骨頸部骨折	3	2	2	2	3	1	1	2	0	0	1	1	18

③医療従事者対象の勉強会・研修会(事務局)

地域医療連携室では、医師会等、地域の医療従事者向けの勉強会・研修会の事務局の役割を担っている。

＜りんくうカンファレンス＞

＜クリニカルレベルアップセミナー＞

【詳細は院内行事のページ参照】

④市民健康講座の開催

＜市民健康講座＞

8月・12月を除く毎月第3土曜日に、当院3階大会議室において市民健康講座を開催している。3月は中止した。

【詳細は院内行事のページ参照】

⑤その他

＜りんくうメディカルネットワーク＞

地域医療機関とのコミュニケーションを図ることを目的として直接顔を合わせる場を設定している。

▶第5回:2019年4月13日開催、

第6回:2019年10月12日は大型台風接近により中止

2. MSWの活動実績

一業務一

MSWは患者とその家族の生活や傷病の状況から生じる経済的・社会的・心理的不安や問題等の解決に必要な社会資源の情報提供や活用の助言・指導等を行い、院内の関係職種・地域の関係機関との連携を密にし、患者が安心して療養できるよう支援することを目的とした業務をおこなっている。

医療費の助成制度、生活費に関すること、転院やかかりつけ医紹介、在宅医療・介護、社会保障制度、家族関係の問題など多岐にわたる相談に応じている。

一実績一

早期退院支援に向けた継続した取り組みとして各病棟で週2日、退院支援カンファレンスを行い、入院前の生活状況、介護福祉サービスの利用の有無、退院後の生活課題等、情報を共有し、患者・家族に入院後早期に退院支援が行えるよう取り組んだ。(実績:4,718件)

退院調整においては、件数としては例年通り、転院調整が最も多く、調整件数は1,186件(前年度は1,196件)と、1月あたり約99件(入院患者のみ)の調整ということになった。また退院前におこなったカンファレンスについても前年度と比較して増加(介護連携253件から306件、共同指導155件から209件)しており、地域の関係機関との連携を強めながら、患者が安心して退院後の生活を送れるよう取り組んでいる。

一対外活動実績一

①大阪府産婦人科医会

安心母と子の委員会、泉佐野市周産期支援部会 等

②南泉州地域医療介護連携協議会

泉州圏域における医療介護の連携体制の現状と課題・これからの連携について協議・検討した。(年3回)

③大阪緊急連携ネットワーク 地域連携担当者会議

3次救急病院と慢性期病床の連携について協議

④大腿骨地域連携パス会議

泉州地域における大腿骨地域連携パスの運用について

⑤脳卒中泉州地域リハ連携会議

南泉州地域におけるリハビリに関する課題について、急性期病院、回復期リハ病院、医療療養型病院、連携開業医と情報共有をおこない、地域連携パスの運用について協議(年3回)

一各種調整実績と成果一

【転院調整実績】

	2018年度合計	2019年度合計
外来から他院	45	47
入院から他院	1,196	1,186

【在宅調整実績】

	2018年度合計	2019年度合計
在宅	414	439
(介護連携)	253	306
(共同指導)	155	209
施設	113	94

3. 看護師の活動実績

—概要—

主に看護師は入院前管理機能、退院支援、退院後訪問活動、ベッドコントロールなどの分野で活動している。

手術決定時からの入院前検査、他科受診のマネジメント、口腔ケア案内、薬剤、栄養スクリーニング、リハビリ指導など、整形外科、外科の手術患者への介入を2017年8月より開始した。新たに今年度4月より心臓血管外科手術症例への介入を開始した。また、泌尿器科のウロストミー造設手術にも着目し入院前から術後のボディイメージを受け入れる事が出来る事が重要であると考え術前支援時に皮膚創傷ケア認定看護師の術前指導が受けられるよう企画、調整した。また口腔外科の侵襲の大きい手術をうける患者の不安が大きく、受け入れ困難なまま手術に臨んでいる患者が多数みられたため、口腔の術前介入も計画し2020年4月より実施することとした。予定入院期間の延長した患者は総介入患者数の7%と少数であった。延長の理由としては原因不明の発熱、創感染、吐血、不整脈、胆汁漏、誤嚥性肺炎、人工血管感染、尿管損傷などで、うち肺炎は1名(誤嚥)であり重篤な合併症の発生は0件だった。その他、患者側の理由として家族の迎への都合、転院調整待ち、食事アップ待ち、退院前のワーファリンコントロールなどであった。

介入患者数の35%で予定入院期間の短縮がみられ術前介入による一定の効果はあったと考える。

早期退院支援では入院前から退院後の生活を見据えて問題点を抽出しMSWやケアマネなどと密に連携をおこなった。MSWと連携することで退院後の生活を想定した介入が出来る体制になった。これとあわせて入院後の病棟でのカンファレンスにサポートセンターの看護師全員で介入できるよう業務体制の工夫を行った。全員で取り組むことで退院後の生活を想定した「つなぐ看護」が入院前から行えるように取り組んだ。

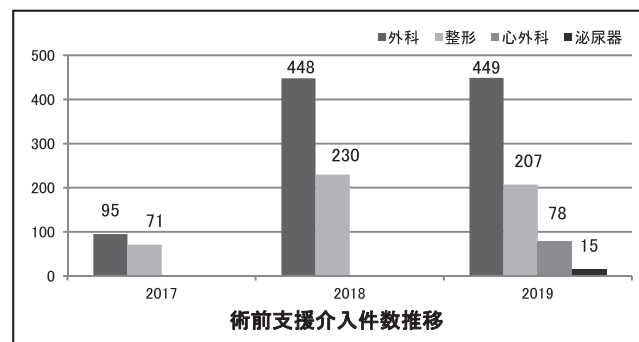
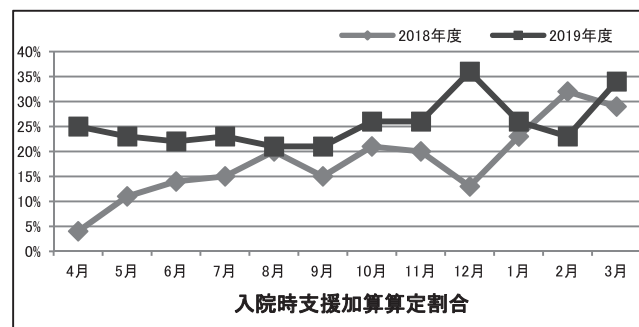
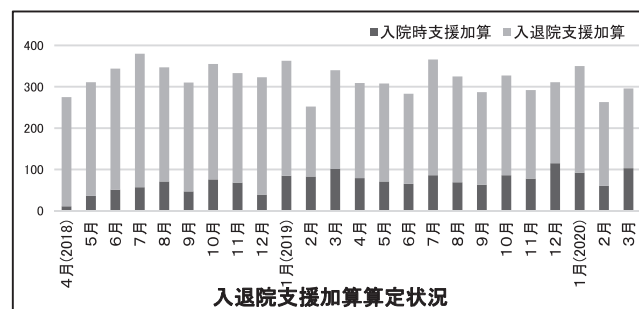
休日入院の経済効果と患者へのメリットを検証した。経済効果では予約ベッドも最大限利用するように改善したため大きな効果はなく、看護必要度で考えると1.5程度上昇が期待できるという結果であった。また患者自身は休日入院を希望するのかが調査した結果、金曜日入院の患者56名中、18名(32%)は土日の入院を希望した。これらの結果をもとに入院前麻酔科診察、手術室看護師術前面接なども視野に入れつつ安全に休日入院できるシステムの構築が今後の課題である。

病床管理では誰でも同じ考え方で調整できることを目標に、病床管理マニュアルを作成し看護部フォルダーに保管し周知した。これにより入院翌日早々に病棟変更の必要な事例は減少した(0件)。昨年度より導入した病床管理ミーティングも定着しより密な患者の情報交換、病棟の空床状況、部屋の位置、治療内容なども考慮し患者にとって安全を意識した転棟調整ができる体制の構築が出来た。また稼働率向上の取り組みと

して予約ベッドの積極的な利用を開始し救急搬送依頼を空床無しという理由で断ることのないように改善した。(過去2年間の実績で、当日退院が週明け平均10名あるため、可能であると判断した。また緊急入院時の転院退院の説明の徹底と各診療科への協力依頼を行った。)

—実績—

加算項目	算定件数(2019年度)
入院支援加算1	3,797件/年
入院時支援加算	927件/年
術前支援	738件(外科・整形外科・心臓血管外科)/年
口腔機能管理料加算	22件(外科・整形外科・心臓血管外科)/年
入院前リハビリ指導	611件(外科・整形外科・泌尿器科)/年
嚥下スクリーニング	2,408件/年
退院支援カンファレンス参加	4,634件/年
クリニカルパス説明	1,055件/年
入院決定時間診	2,297件/年
サポートセンター利用率	99.2%(平日時間内入院)



—今年度の成果—

2017年8月より取り組んでいた周術期患者の術前支援の拡大ができたことで問題点のある患者へ手術予定の変更の提案や環境調整、ケアマネジャーとの連携などを術前早期から行うことができ、術後合併症の減少や休日入院の推進などの良い効果を得た。また、重篤な手術後合併症を発症した症例もなく入院期間が総介入患者数の30%で短縮していたことより術前介入の効果はあったと考える。入院前問診を行うことによる入院時支援加算算定も昨年度より4.7倍の増加があり、経済効果も大きいと考える。